

東区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
ひがしふれあい文化祭		東区ふれあい事業実行委員会			
事業目的	事業効果	活動指標	R3	R4	R5
区民が文化・芸術に触れる機会を創出するとともに、区民間のコミュニティの輪を広げ、明るく住みよい安全なまちづくりの推進の一助とする。 また、文化の振興発展を促すことで、区民の親睦・連帯の推進を図る。	多くの区民が参加することにより、区域の一層の親睦、連帯、交流を深め、明るく住みよい安全なまちづくりを推進するとともに、区民が事業に積極的に参画することで、まちづくりの担い手づくりが期待できる。 また、絵画等の出展の機会を提供するなど、区民の文化活動を支援し、交流の場を設けることで、区民相互の親睦・連帯が推進される。	作品展出展応募数	40点	74点	93点
		来場者数	973人	2310人	2362人
①妥当性	②協働の視点	③インパクト		④効率性	
○	◎	○	○		○
区民が文化的活動を発表する機会を行政が提供し、活動を支援することで、区民間の親睦、連帯、交流が深まり、明るく住みよい安全なまちづくりに寄与しており、妥当性が高い事業である。	文化祭の準備段階から、区民等で構成された企画委員会で協議し、当日においても地域の方と運営・実施していることから、協働の度合いが非常に高い事業である。	一般作品展だけではなく、区内の小・中・高校生が製作した作品の展示や、野点、市民参加型のコンサートを実施することで、区内のみならず、区域外、市外にも文化的活動を広報でき、多くの方を引きつけるインパクトのある事業といえる。		区政策会議から推薦された企画委員から企画内容の提案、地域の学校等の協力、各校区から当日の運営応援に携わっていただくことで効率的に開催できた。	
⑤自立発展性	総合評価				
△	○	コロナ禍以前に好評であった野点コーナーの再開や、企画委員からの提案・企画により、琴の体験コーナーや市民参加型のコンサート等を実施することで、日本の文化はもちろん様々な芸術に触れることができる催しを行った結果、2,362人もの方に来場頂き、成功裏に終えることができた。			
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	来場者数が一定の水準で推移していることから、当該事業が区民の文化的活動の発表の場として認知されていると判断する。また、併せて東区で実施されている文化的活動と開催内容等について比較・検討し、差別化や統合化することで効果・効率を高めていく必要がある。				